

# リース会計、売買処理を 採用する企業

制度調査部  
齋藤 純

近年では日産、ドン・キホーテなどが売買処理に移行

## 【要約】

- 企業会計基準委員会から新リース会計に関する会計基準案が公表され、借手企業にも影響が及ぶのではないかと注目されている。
- もっとも、「売買処理」と「賃貸借処理」の選択が認められている現行リース会計においても、僅かではあるが「売買処理」を採用している企業がある。これらの企業は、新リース会計が適用となった場合でも、ほとんど影響を受けることはない。
- 本稿では、既に「売買処理」を採用している企業をリストアップした。

- 企業会計基準委員会から、新リース会計基準案が公表されている。新リース会計基準案の最大の特徴は、所有権移転外ファイナンス・リース取引の会計処理が、「売買処理」と「賃貸借処理」の選択制から「売買処理」に一本化される点である<sup>1</sup>。
- 現在、賃貸借処理を採用している企業では、新リース会計が適用され「売買処理」が義務付けられることとなると、リース物件を自社の貸借対照表に計上しなければならなくなり、原則として、貸借対照表のスリム化効果が消滅する(その結果、影響度に差は出るものの、ROA や自己資本比率の悪化にもつながる)。
- 現在、所有権移転外ファイナンス・リース取引については、ほとんど 100%に近い企業が例外処理である「賃貸借処理」を採用している。しかし、現時点でも、僅かではあるが「売買処理」を採用している企業もあり、これらの企業では、新リース会計が適用されても基本的に影響は受けない。本稿では、「売買処理」と「賃貸借処理」の選択が認められている現行リース会計においても、あえて「売買処理」を採用している企業をリストアップした。

## ■ 既に「売買処理」を採用している企業

- EDINET により、所有権移転外ファイナンス・リース取引について「売買処理」を採用している企業を検索したところ、図表 1 の通り、非上場企業も含め 11 社が確認できた。

図表 1 所有権移転外ファイナンス・リースについて「売買処理」を採用している企業

|                   |                |
|-------------------|----------------|
| ・イー・アクセス(東証 1 部)  | ・アビリティ(東証 1 部) |
| ・エルピーダメモリ(東証 1 部) | ・日産自動車(東証 1 部) |
| ・オークネット(東証 1 部)   | ・santec(ヘラクレス) |

<sup>1</sup> 新リース会計基準案の詳細については、齋藤 純、DIR 制度調査部情報「新リース会計、借手側の会計処理 ―リース利用企業の ROA、自己資本比率に影響も―」(2006 年 7 月 31 日)を参照。

- |                    |                   |
|--------------------|-------------------|
| ・ブリヂストン(東証1部)      | ・表蔵王国際ゴルフクラブ(非上場) |
| ・公文教育研究会(非上場)      | ・ドン・キホーテ(東証1部)    |
| ・メモレックス・テレックス(非上場) |                   |

- この11社のうち、売買処理への移行時期が確認できる企業について、移行時の有価証券報告書における「会計方針の変更に関する記載」をまとめたものが図表2である。
- 各社とも売買処理に移行した理由を記載しているが、ほとんどの企業が「リース取引を財務諸表に的確に反映させる」ことをその理由としてあげている。その他の理由としては、「減損会計の導入に対しより適切に対応するため<sup>2</sup>」(santec)、「費用と収益をより適正に対応させるため」(日産自動車)などが挙げられている。

図表2 売買処理への移行時期と会計方針の変更に関する記載

| 社名     | 売買処理への移行期 | 会計方針の変更に関する記載                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                 |
|--------|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| アビリティ  | 2001年6月期  | <p>(会計処理方法の変更)</p> <p>リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、前連結会計年度までは通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より、リース業を主たる業務とするクリエイション・クレジット㈱を連結子会社としたことに伴い、リース取引の重要性が増したことからその実態をより的確に連結財務諸表に反映させるため、当該リース取引について通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。その結果、従来の方策によった場合に比べて、流動資産が55,350千円、有形固定資産が285,441千円、無形固定資産が12,214千円、投資その他の資産が94,558千円、流動負債が174,739千円、固定負債が272,825千円増加しております。また、売上原価が3,998千円、販売費及び一般管理費が10,087千円それぞれ減少したことに伴い、営業利益は14,086千円増加しておりますが、経常利益及び税金等調整前当期純利益に与える影響は軽微であります。</p> |
| 日産自動車  | 2004年3月期  | <p>(リース取引の処理方法)</p> <p>提出会社及び国内連結子会社は、従来、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっていたが、リース資産の増加に伴い、製造原価を適切に計算し、費用と収益をより適正に対応させるとともに、国際的な会計慣行との整合性の観点からリース取引を財務諸表に的確に反映させることにより財政状態をより適正に表示するため、当連結会計年度より原則的方法である通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更した。</p> <p>この変更により、従来の方策によった場合と比較し、売上高は17,943百万円減少し、売上原価は38,910百万円減少、販売費及び一般管理費は624百万円減少、営業利益は21,591百万円増加、経常利益及び税金等調整前当期純利益は17,659百万円増加している。</p> <p>また、売掛金及び販売金融債権は70,670百万円、有形固定資産は66,514百万円、リース債務は120,061百万円増加している。</p> |
| santec | 2004年3月期  | <p>(会計処理方法の変更)</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                            |

<sup>2</sup> 「固定資産の減損に係る会計基準」は、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち「売買処理」を適用しているリース資産に対しても、自社で取得した固定資産と同様に適用される。これに対し「賃貸借処理」を適用している所有権移転外ファイナンス・リース取引に関しては、借手の貸借対照表にリース資産が計上されないため減損会計の適用が困難となる。ただし、「売買処理」を適用したリース取引との均衡上、「賃貸借処理」を適用している所有権移転外ファイナンス・リース取引については、未経過リース料の現在価値を帳簿価額に置き換えて減損会計を適用することと規定されている。

|             |              |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|-------------|--------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|             |              | <p>リース取引の会計処理は、従来、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりました。当社グループは当連結会計年度末において「固定資産の減損に係る会計基準」（以下、減損会計基準）の早期適用をしておりますが、この減損会計基準におきましてはリース資産についても減損処理の対象となっております。リース資産に対し固定資産と同様の減損処理を実施することにより、当該減損会計の導入に対しより適切に対応するため、そして、リース資産及びリース債務をオンバランス化することにより、財務状況をより明瞭化するため、当連結会計年度より、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更することといたしました。</p> <p>この変更により、従来の方法によった場合に比べ、連結貸借対照表については、有形固定資産が 123,856 千円、流動負債が 214,731 千円、固定負債が 164,309 千円増加し、連結損益計算書については、営業利益が 22,038 千円、経常利益が 2,551 千円増加し、税金等調整前当期純利益が 22,968 千円減少し、連結キャッシュ・フロー計算書については、営業活動によるキャッシュ・フローが 339,295 千円増加し、財務活動によるキャッシュ・フローが 339,295 千円減少しております。</p> |
| 表蔵王国際ゴルフクラブ | 2004 年 12 月期 | <p>（会計方針の変更）</p> <p>リース取引は、従来、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引について、通常の賃貸借取引に準じた会計処理を行っておりましたが、その取引実態を財務諸表に的確に反映させるため、当中間期から通常の売買取引に準じた会計処理に変更しました。</p> <p>この結果、従来の方法によった場合に比べて有形固定資産が 25,008 千円、無形固定資産が 8,232 千円増加し、同時に短期リース債務が 12,770 千円、長期リース債務が 21,263 千円増加しております。さらに、リース料が 13,166 千円減少し、減価償却費が 12,348 千円、支払利息等が 1,612 千円それぞれ増加したため、経常利益及び税引前当期純利益は 794 千円減少しております。</p>                                                                                                                                                                                                                                                |
| ドン・キホーテ     | 2005 年 6 月期  | <p>1. リース取引の処理方法</p> <p>従来、リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっておりましたが、当連結会計年度より、原則的方法である通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理に変更しております。この変更は、国際的な会計慣行との整合性の観点から、リース取引を財務諸表に的確に反映させることにより、財政状態を適正に表示するためのものであります。</p> <p>この変更により、従来と同一の方法を採用した場合に比べ、有形固定資産が 115 百万円、流動負債が 48 百万円、固定負債が 67 百万円増加しておりますが、利益に与える影響は軽微であります。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                     |

(出所)各社有価証券報告書より抜粋